

公益財団法人水島地域環境再生財団

平成 23 年度（2011 年度）事業報告書

2011 年 11 月 1 日～2012 年 3 月 31 日

公益財団法人として移行後初にあたる本事業年度は、倉敷公害訴訟和解成立から 15 年の節目にあたる。水島地域の公害経験を活用し、持続可能な社会を形成するための「みずしまプロジェクト」を重点項目として取り組んだ。

そうした中で、2012 年 4 月に開所する倉敷市環境学習センター内に設置されるパネル作成を倉敷市から委託された。公害の歴史、さらには公害をなくすために努力した各主体の取り組みについて 10 枚のパネルにまとめた。作成に関しては、様々な主体と連携し、また倉敷市とも密に協議し、完成、設置することができた。このことは、みずしま財団設立から 11 年を迎える上で、非常に重要な事柄であった。

引き続き、「公害経験とその教訓を伝え、将来の世代が安心して暮らせる環境を創出する」という使命を再確認し、資料保存/活用と、研修事業を連動させ、次年度に発展させていきたい。

1. 重点項目

(1) みずしまプロジェクトの強化

倉敷市水島地域の公害経験を活用し、公害・環境問題が深刻化している日本を含めたアジアの公害・環境問題の解決をめざし、また世界中で二度と公害を繰り返さない、発生させない、そして持続可能な社会を形成することを目的とした「みずしまプロジェクト」を強力に推進していくことを目的とした。ツアー開催はこの期間内にできなかったが、大学教員等、研修を企画する担当者への営業を実施し、次年度以降の参加者確保につながった。

2. 個別項目

【調査研究】

地域の研究機関としての役割を果たすために「水島のまちづくり」「公害・地球環境」「高梁川・瀬戸内海の環境再生」「コンビナート研究」を大きなテーマとして、新たな課題の発掘やその解決にむけた調査研究をおこなうことを目的に以下の事業をおこなった。

* 瀬戸内海分野（海守さぬき会、委託：香川県水産課、海洋政策研究財団）

瀬戸内海の海底ゴミの現状を把握するとともに、海底ゴミ削減に向けた取り組みの輪を広げるために、瀬戸内海沿岸及び香川県における海底ゴミの実態ならびに取組を把握

する調査を行った。

・瀬戸内海沿岸の漁業者の海ごみへの取組実態把握

瀬戸内海沿岸の漁業組合と対象に、海底ゴミへの対応と、各漁協の操業場所の海底ゴミの状況について、アンケート調査を行った（委託：海洋政策研究財団）。瀬戸内海沿岸域（11 府県）410 漁協に配布 123 漁協から回答（回答率 30%）を得て、ゴミの多い海域や、今まで想定していなかった種類（流木・草類）への対策の必要性もわかった。今後の課題は、10 年前の瀬戸内海沿岸の海ゴミと回収処理の実態調査との比較検討である。

・香川県での海底ゴミ実態把握調査

香川県水産課および海守さぬき会から委託を受け、香川県域の海底ゴミ実態把握調査を実施した。専門家として、回収作業の助言とともに、漁協へのヒヤリング調査を行い、海底ゴミのたまりやすい海域や、年間回収量の推計を行った。海底ごみ回収処理体制づくりに関する提言や今後の対策などを含めた調査報告書をまとめ、瀬戸内海におけるよりよい回収処理体制についての知見を得た。

- ・ 県中央～西部 5 漁協の操業域（備讃瀬戸海域、播磨灘西部海域）：香川県水産課
- ・ 県東部 5 漁協の操業域（備讃瀬戸東部海域、播磨灘南部海域）：海守さぬき会

* 資料保存分野（委託：公益財団法人公害地域再生センター）

長年の課題であった資料保存について、独立行政法人環境再生保全機構の「ホームページコンテンツ『大気汚染と裁判』に係る掲載情報の拡充業務（公害裁判に関する公開資料の選定及び電子化並びにコンテンツの作成等）」（請負先：公益財団法人公害地域再生センター）の一部を水島において実施することになり一歩前進した。今年度は、倉敷公害裁判の訴状ならびに準備書面についての目録、電子化およびサイト掲載が終了した。今後は、引き続き、裁判資料（証人調書、書証等）や患者会資料等について取り組んでいくことで、資料保存の前進をめざす。

* 環境保健分野：

だれもが、安心して健康に暮らせるまちをめざして、今年度、環境保健の分野では公害患者の QOL・ADL 向上ならびにぜん息・COPD 発症予防等に関する事業を実施した。例年、水島協同病院と連携して行う肺年齢測定を実施（11/20、11/26）。また、地域の各主体が意見交換し、今後の事業の方向性を検討する検討会も実施した（2012.1.6）。今後は、呼吸リハビリの普及を地域でどうすすめていくか、また、公害死亡患者遡及調査の未着手部分である公害地域、非公害地域の剖検例の比較などが課題としてある。

*** コンビナート研究分野（委託：日本共産党岡山県議団政務調査費）**

岡山県内の温室効果ガス排出量の7割をしめる産業部門での排出量削減をすすめていくために、「岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」への評価・分析等を専門家の協力を得て報告要旨をとりまとめた。今後は、さらに企業の取り組みを推進していくためのバックアップとして、継続的に調査をすすめるとともに、報告書の活用や行政・企業・市民への啓発活動にもつなげていくことが課題である。

*** 震災復興支援分野（委託：海洋政策研究財団、倉敷パートナーシップ推進ひろば）**

東日本大震災の被災地支援の一環として、みずしま財団の強みを活かした調査事業に取り組んだ。

・ 震災ガレキ調査等

1つは、海底ゴミ調査の経験を活かし、東北地方の沿岸域のガレキの調査を実施した（委託：海洋政策研究財団）。

宮城県・岩手県の漁協等 56 団体へのアンケート調査ならびに沿岸自治体・漁協等へのヒヤリング調査（1/23～25、2/22～23）をおこなった結果、漁港・航路等の海底ガレキの撤去は進んでいるものの、それ以外の沿岸部・沖合はほとんど進んでいない状況であることがわかった。今後の課題としては、瀬戸内海の環境再生を進めるのと連携し、漁業復興のカギである海底環境の回復に向けた提言などをおこなうことである。

・ 倉敷市内並びに被災地の復興支援活動に関する調査

もう1つは、新しい公共支援事業の一環としておこなわれた「マルチステークホルダーによる災害復興支援の仕組みづくり」をめざした「DONATION くらしき」の調査事業への協力である。倉敷町家トラスト、倉敷パートナーシップ推進ひろば、株式会社 地域協働推進機構 岡山支社、倉敷市の4者による事業であるが、この中の倉敷市内の企業・市民団体へのアンケート調査ならびにヒヤリング、被災地での復興支援活動に関するヒヤリング等を倉敷パートナーシップ推進ひろばと連携して実施した。その中で、倉敷での支援活動の継続と情報提供の重要性があらためて浮き彫りになった。その中で、みずしま財団としては、倉敷市内で支援活動をおこなう団体へ、財団らしいサポートを行っていくことを検討していきたい。

【提言活動】

各研究員が参加する委員会等において、調査研究活動等で得られた知見、また研究者や他NPO等と連携などを活かし、提言活動をおこなった。

- * 岡山県環境審議会 廃棄物部会 委員 (1/20)
- * 岡山県河川整備検討会 委員 (1/13)
- * 国土交通省備讃瀬戸環境修復協議会味野湾部会 (11/28、3/28)
- * 地球環境基金実務者ミーティング (2/7)
- * 環境省中央環境審議会現地ヒヤリング (高松、2/14)
- * 岡山県環境学習センターアスエコ懇談会 (1/10)

【講師派遣】

地域の環境への取り組みや市民力アップを目的に、講師派遣をおこなった。

<瀬戸内海・河川関連>

- ・ 児島鷺羽ライオンズクラブ (3/7) 30名
- ・ 旭東小学校 (アスエコからの派遣) (5/27) 25名

<フードマイレージ関連>

- ・ 教材貸出 (玉島北中学校、岡山県中学校教育研究会家庭科部会)

<環境保健>

- ・ 平成 23 年度公害健康被害予防事業研修フォローアップ (事例検討) 研修 (独立行政法人環境再生保全機構) (11/10) 27名

<その他>

- ・ 岡山県立矢掛高等学校 (3/2) 35名

【視察受入】

公害経験を活用した研修・視察を通じて持続可能な社会の形成に寄与するため、みずしまプロジェクトと連動し、受け入れ体制強化および受け入れ増をめざした。大学教員等、研修企画担当の方との連絡・情報交換を強化し、次年度へつないだ。

<大学関係>

- ・ 川崎医科大学

対象：医学部4年生 99名 (5回に分けて受入：6/8日、8/31、9/28、10/12、11/2)

内容：水島地区をバスに乗って、みずしま財団研究員の解説を聞きながら視察後、公害医療に携わった水島協同病院里見和彦医師と公害患者さんの話を聞き質疑応答する計3時間の内容。(事前にビデオ視聴30分含む)

- ・ 専修大学

9月に受入をした社会学部2年生の報告書作成および次年度研修について、担当教官と情報交換・共有した。

<その他>

- ・ 公益財団法人公害地域再生センターが実施した「公害地域の今を伝えるスタディツアー」に記録スタッフとして参加した。エコツアーや公害地域での情報発信に関する知見を得るとともに、水島地域の経験についての情報発信や、各地域との情報共有等をおこなった。

【学習講座・啓発活動】

地域の環境への取り組みや市民力アップ、住民のよりよい生活を目的に、地域の現状・課題に即した学習講座・啓発活動をおこなうことを目指した。市民が主体的に学びの効果を得られるよう、企画・運営に配慮し、実施した。講座の認知度や信頼感が高まっていることから、リピーターが増えている。とりわけ漁業体験をテーマにした講座は、広報を開始してすぐに申込みが入り、キャンセル待ちが毎回でるほどの要望があった。アンケートで得られた「参加者の声」をHPで発信するなど、海への関心を社会へ広げる方法について工夫して事業を実施した。今後は、新規の参加申込みが増えるような企画や広報の実施を課題としたい。

<瀬戸内海・河川関連講座>

- * 市民が自ら地域の環境を調べるための「高梁川流域のエコ指標」を作成。成果を「エコ指標虎の巻」として印刷物にまとめた。作成に関しては以下の検討会や観察会を実施した。(助成：岡山県備中県民局協働事業)
 - ・ 検討会の開催(2/2)(委員：里山の専門家等 4名)
 - ・ 「高梁川流域のエコ調べツアー森編」(11/23)高梁美しい森 14名
 - ・ 「高梁川流域のエコ調べツアー海編」(12/17)備讃瀬戸海域、小与島 18名
 - ・ 報告会「エコ指標を使って、地域を調べよう！」(3/4) 17名
- * 海底ゴミ問題や生物多様性に関する課題も含めて瀬戸内海的环境再生について学ぶ、体験型学習を実施するとともに、各種イベントでの海ゴミ展示ならびにFMくらしきにおいて海ゴミをテーマにした番組を放送した。(委託：岡山県水産課、海ごみ普及啓発事業、助成：一般財団法人自然公園財団本州四国連絡橋周辺環境保全事業、NPO法人瀬戸内オリーブ基金)
 - ・ 「海岸ごみと海辺の生き物を考える観察会」(2/11)寄島三郎島海岸 23名(岡山県

水産課)

- ・「瀬戸内海の漁業&海と私たちの暮らし」(2/25) 寄島町漁協、寄島沖 32名(岡山県水産課)
- ・「船に乗ってみんなで知ろう!瀬戸内海の漁業&海と私たちの暮らし」を開催した。
 - 第1回 丸亀市沖、塩飽漁連事務所 21名(3/10)
 - 第2回 黒崎沖 39名(3/17)
 - 第3回 丸亀市沖、城北コミュニティセンター 30名(4/14)

<環境保健関連講座>

毎年実施している「和解成立日記念イベント」を、今回は、「呼吸リハビリ講演会&クリスマスコンサート」と題して、公害患者向けに呼吸リハビリの活用について、佐藤雅昭氏(健寿協同病院)に講演してもらうとともに、倉敷管弦楽団弦楽四重奏の演奏をおこなった(12/23)。

<NPO向け講座>

- ・中四国の環境コーディネーターが、「もう一歩進んだ協働」で「キラリと光る存在」となるために、宗田好史氏(京都府立大学)、高田研氏(都留文科大学)を講師に、平成23年度中国ブロック環境NGO・NPO活動推進・組織運営講座「環境コーディネーター次のステップ講座」を開催。(主催:独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部)(11/12-13)。(倉敷市民会館 参加者NGO/NPOスタッフ・行政職員など16名)
- ・地域の環境NPOの底上げとNPOにおける調査の重要性について共有することを目的に川原啓路氏(たけえだ水辺の楽校実行委員会)を講師に、倉敷市内の環境NPO向けに講座を実施。環境NPOサロン「活動を地域で深めていくには? - 環境NPOの担ってきた役割 調査の重要性 - 」(主催:倉敷市、企画運営:倉敷パートナーシップ推進ひろば:平成23年度 倉敷市市民活動パワーアップ事業)(1/7)(倉敷市環境交流スクエア 参加者20名)

<展示等啓発活動>

みずしま財団の活動およびイベントのテーマに応じて、海ごみやフードマイレージなどの展示によって啓発活動を行った。

- ・第6回おかやま・もったいない晴れの国フォーラム(主催:岡山県他)(11/5)
- ・第44回くらしき農業まつり(主催:倉敷市他実行委員会)(11/28)
- ・アースキーパーのつどい(主催:岡山県他)(12/4)

- ・ STOP 温暖化くらしき（主催：倉敷市他実行委員会）(12/11)

【支援連携】

地域の市民活動の底上げをめざして、他団体と連携するとともに、他団体の支援体制を整え、地域課題に協働して取り組んでいくことをめざした。

（瀬戸内海・海ごみ関係）

- ・ 瀬戸内の環境を守る連絡会
- ・ 環瀬戸内海会議
- ・ 瀬戸内沿岸住民集会
- ・ 一般社団法人 J E A N（潮風サポート）

（環境学習関係）

- ・ 岡山県環境学習協働推進広場（運営委員）
- ・ 「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議（団体準会員）

（水島地域関係）

- ・ みずしま夢 koi・koi！実行委員会（事務委託）
- ・ 水島おかみさん会（事務委託）
- ・ 水島雛めぐり実行委員会（実行委員）
- ・ 水島を元気にする会（会員）
- ・ 水島まちづくり研究ワーキンググループ（事務局）

（公害・環境、まちづくり関係）

- ・ 倉敷環境市民会議（エコらぼ倉敷）(事務局)
 - エコ遠足 福田（11/28）
 - エコカフェ座談会（2/17）
- ・ S T O P 温暖化くらしき実行委員会（実行委員）
- ・ GREENDAY 実行委員会（実行委員）
- ・ おかやま環境ネットワーク（理事）
 - 自然環境部会
- ・ 倉敷・総社温暖化対策協議会（会員）
- ・ 倉敷パートナーシップ推進ひろば（正会員）
- ・ 倉敷まちづくりネットワーク（団体会員）

- ・ 公益財団法人公害地域再生センター（団体賛助会員）
- ・ 尼崎南部再生研究室（団体賛助会員）
- ・ 名古屋南部再生センター（団体賛助会員）

【情報発信・収集（資料館）】

地域や公害・環境に関する情報を収集し、提供をおこない、地域の情報や、みずしま財団の活動や情報を必要な人に、必要な時に、的確にとどけていけるような情報発信をおこなうことをめざした。その中でも、特に様々なツールを組み合わせ効果的な発信・収集をおこなっていくことに留意した。

< パネル製作 >

倉敷市の委託を受け環境展示パネルを作成した。公害の歴史、さらには公害をなくすために努力した各主体のとりくみについて説明する内容を10枚にまとめ、倉敷市との協議の上で完成、展示した。作成に当たっては、倉敷市歴史資料整備室や写真家個人等、多くの方の協力を得た。これをきっかけに今後の資料保存をより積極的におこないたい。

< 出版 >

- * みずしま財団たより：年6回発行
 - 63号：11月発行 特集『「公益認定」記念特別編』
 - 64号：1月発行 特集「新春企画！ 3人が語る！新春みずしま財団の抱負」
 - 65号：3月発行 特集『「支援」～東日本大震災 被災地支援』

< WEB 関係 >

- * face book みずしま財団ファンページ開設。ホームページ、ブログ、ツイッター等の複合的な情報発信をおこなった。イベント参加者募集の際に、従来とは異なる層の参加者があった。
- * 毎週、役員等向けのメールマガジンを発行。

< メディア >

* ラジオ

FMくらしき 毎週金曜日 15：45～15：58頃

「みみみみずしま財団 エコらぼ Friday」放送

テーマ

11月：「秋だ！イベントに行こう」

12月：「12月は、大気汚染防止推進月間、地球温暖化防止月間」

- 1月：「山、川、海」
- 2月：瀬戸内海と海ゴミ（1）
- 3月：瀬戸内海と海ゴミ（2）

* TV

- ・NHK「倉敷公害訴訟 風化させない取り組み」 2011年12月26日（月）放送
- ・RNC「海の叫びを聞け 美しい瀬戸内海を守る海守たちの記録～」2012年2月4日（土）放送

* 新聞

- ・毎日新聞「ESDもっと知って 高梁川流域の「エコ指標虎の巻」」2012年3月9日（金）
- ・山陽新聞「高梁川流域今むかし 2河口域」2012年3月25日（日）

【組織運営】

（1）公益法人改革

2011年11月1日に登記し、公益財団法人水島地域環境再生財団となった。

（2）機関会議等

【組織】

* 機関会議の開催

（移行前）

・理事会

第37回理事会（通常会）（2011年6月25日）

- ・平成22年度 事業報告、決算

第38回理事会（臨時会）（2011年10月15日）

- ・定款の議決、平成23年度上半期決算報告

・評議員会

第30回評議員会（通常会）（2011年6月11日）

- ・平成22年度 事業報告、決算

（移行後）

・理事会

第1回理事会（2011年11月26日）

- ・財団法人 平成23年度事業報告、決算

第2回理事会（2011年12月24日）

- ・公益財団法人 平成23年度事業計画、予算、寄附金取扱規程

第3回理事会(2012年2月26日)

・公益財団法人 平成24年度事業計画、予算

・評議員会

第1回評議員会(臨時会)(2012年1月15日)

・財団法人 平成23年度事業報告、決算

第2回評議員会(臨時会)(2012年3月10日)

・公益財団法人 平成24年度事業計画、予算

* 監査

平成23年度財団法人水島地域環境再生財団(4月1日~10月31日)事業について、監査を2011年11月15日実施した。

(3) その他

毎週木曜日の午前に事務局打合せの会議を開催。打合せでの重要事項や決定事項ならびに1週間の取り組み、会費納入状況などをメールマガジンとして、役員等に発行し、情報を共有した。

以上